施策評価（令和7年度）

戦略3 観光・交流戦略			
目指す姿1 「何度でも訪れたくなるあきた」の創出			
幹事部局名	観光文化スポーツ部	担当課名	誘客推進課
評価者	観光文化スポーツ部長	評価確定日	令和7年7月31日

1 施策（目指す姿）のねらい（施策の目的）

時代の流れや価値観等の変化に柔軟に対応し、裾野の広い観光産業の稼ぐ力を引き出すとともに、旅行者が何度でも訪れたくなる魅力的な秋田の観光の実現を目指します。

2 施策の状況

2-1 成果指標の状況及び定量的評価

	施策の方向性、指標名(単位)	年度	2019 (R元)	2020 (R2)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	直近の 達成率	配点	備考
①	【施策の方向性②】 「アキタファン」へのアクセス数(千件) 出典: 県調べ	目標			1,500	1,620	1,740	1,860	172.9%	4	
		実績	-	-	2,108	2,737	3,009				
		達成率			140.5%	169.0%	172.9%				
②	【施策の方向性②~④】 観光地点等入込客数(延べ人数) (千人) 出典: 県「秋田県観光統計」	目標			28,000	35,000	36,500	38,000	84.4%	2	
		実績	35,270	18,360	25,275	28,354	30,807				
		達成率			90.3%	81.0%	84.4%				
③	【施策の方向性①、③、④】 延べ宿泊者数(千人泊) 出典: 観光庁「宿泊旅行統計調査」	目標			2,900	3,300	3,700	3,800	85.1%	2	
		実績	3,654	2,546	2,772	3,001	3,150				
		達成率			95.6%	90.9%	85.1%				
④	【施策の方向性⑤】 外国人延べ宿泊者数(人泊) 出典: 観光庁「宿泊旅行統計調査」	目標			10,000	20,000	35,000	70,000	341.7%	4	
		実績	139,400	25,380	16,280	95,600	119,610				
		達成率			162.8%	478.0%	341.7%				

※ 指標の判定基準

4点: 達成率 $\geq$ 100% 3点: 100% $>$ 達成率 $\geq$ 90% 2点: 90% $>$ 達成率 $\geq$ 80%
1点: 80% $>$ 達成率 $\geq$ 70% 0点: 70% $>$ 達成率 n: 実績値が未判明

定量的評価結果	計算式
3.00 (c相当)	4点 × 2個 = 8点 1点 × 0個 = 0点
	3点 × 0個 = 0点 0点 × 0個 = 0点
	2点 × 2個 = 4点
	合計 12点 ÷ 4個(判明済み指標) = 3.00

※ 成果指標において実績値が未判明となった指標がある場合には、それを除いて平均点を算出する。

※ 定量的評価の判定基準

a相当: 平均点が3.6点以上 b相当: 平均点が3.2点以上3.6点未満 c相当: 平均点が2.8点以上3.2点未満
d相当: 平均点が2.4点以上2.8点未満 e相当: 平均点が2.4点未満

2-3 主な取組状況とその成果

<p>【施策の方向性① 自立した稼ぐ観光エリアの形成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光業の生産性向上を図るため、宿泊サービスの高付加価値化に向けた施設整備(13件)や、デジタル技術の活用による経営の効率化に向けたシステム導入(5件)を支援した。 <p>【施策の方向性② ターゲットの的確な把握と効果的な誘客プロモーションの展開】</p> <ul style="list-style-type: none"> データに基づいた観光戦略の展開に向けて、「秋田県観光DMP」を管理運営し、データ提供に協力する宿泊事業者を92施設まで拡大したほか、大館市、横手市、鹿角市等の観光地域づくり法人と連携し、DMPのデータを活用したエリアマーケティングの実証を実施し、県内の観光業関係者に横展開した。 <p>【施策の方向性③ 時代の変化を捉えた秋田ならではのツーリズムの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界自然遺産を有する1都1道4県が連携し、世界自然遺産を活用した共同ウェブサイト等によるPR及び商品造成の促進や森吉山県立自然公園を中心とするファミツアー(4社7人)及びプロモーションを実施したほか、白神山地の魅力を訪訪者に伝えるとともに保全活動を担う「あきた白神認定ガイド」のスキルアップ研修を実施(参加者数37人)した。また、白神山地エリアで体験可能なアクティビティ等の情報をまとめたデータベースサイトを構築した。 自然公園利用者の安全性や快適性の向上を図るため、鳥海国定公園「法体の滝園地吊橋」等の施設改修を4か所実施した。 <p>【施策の方向性④ 旅行者の多様なニーズに応じた受入態勢の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> バリアフリー観光を推進するため、観光施設のバリアフリー調査や高齢者モニターツアーを実施した。 観光案内所のコンシェルジュ機能を強化するワークショップ(2回)や、観光関連事業者のホスピタリティ向上セミナー(2回)を実施した。 <p>【施策の方向性⑤ 戦略的なインバウンド誘客の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外での本県の認知度向上を図るため、SNSや現地イベント等で情報発信を行った結果、令和6年度の各市場向けのSNS等のリーチ数が15,166,285となった。 令和5年12月に台湾チャーター便が就航し、令和6年度は延べ24,671人(うち台湾人等が21,431人)が利用した。 令和5年3月に国際クルーズの受入を再開し、27回の寄港受入を行ったほか、今後の寄港の継続化に向けて海外船社の関係者を招聘した。
--

3 総合評価と評価理由

総合評価	評価理由
C	成果指標の達成率を基にした定量的評価は3.00で「c相当」であることから、総合評価は「c」とする。
	【定性的評価として考慮した点】

4 県民意識調査の結果

質問文	秋田の魅力が向上し、国内外から観光誘客が進んでいる。					
満足度	調査年度	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	前年度比
満足度	肯定的意見	12.9%	14.9%	11.8%		△3.1
	十分 (5点)	1.3%	1.6%	1.3%		△0.3
	おおむね十分 (4点)	11.6%	13.3%	10.5%		△2.8
	ふつう (3点)	39.1%	31.7%	27.4%		△4.3
	否定的意見	37.6%	46.2%	54.9%		+8.7
	やや不十分 (2点)	21.8%	26.0%	31.0%		+5.0
	不十分 (1点)	15.8%	20.2%	23.9%		+3.7
	わからない・無回答	10.3%	7.1%	5.8%		△1.3
	平均点	2.56	2.46	2.30		△0.16

※端数処理の関係で満足度の割合の合計は100%にならないものもある。

5 主な課題と今後の対応方針

施策の方向性	課題	今後の対応方針
①	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観光産業は労働生産性が低いほか、人材不足が生じている。 ○ 観光産業において、観光消費額の拡大に向けた「観光で稼ぐ」観光地経営の取組が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 宿泊施設の経営力強化に資する改修等の支援やデジタル技術の活用のワークショップなどにより労働生産性の向上を図るとともに、職場環境の改善や女性活躍推進のセミナーなどにより観光人材の定着・確保に向けた取組を進める。 ○ 既存の観光資源の磨き上げに加え、各DMOと連携しアウトドアアクティビティなど観光客への訴求力の高い観光コンテンツづくりに力を入れるほか、観光と「食・文化・スポーツ」との連携した取組や旅行者の多様なニーズに対応しながら観光産業の収益力の向上を図る。
②	<ul style="list-style-type: none"> ○ 秋田県観光DMPのデータの量が充実しておらず分析の精度に向上の余地があるほか、県、DMO及び宿泊事業者におけるデータ分析のスキルや分析結果を実際の取組に生かすノウハウが不足している。 ○ デジタルマーケティングによって把握された、本県に関心の高いターゲット層(ペルソナ)をリピーターとして取り込む施策やファン獲得に向けた取組が不十分であるほか、ペルソナ以外にも刺さるコンテンツの検証が不足しており、属性毎のニーズに応じた情報発信ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ データ量の充実に向け、データ提供者である宿泊事業者の参加拡大を図るとともに、関係者のデータ活用技術の向上のため、データ活用マニュアルを作成する等の支援を行う。 ○ GoogleやYahoo!等のウェブ広告を活用したデジタルマーケティングにより顧客層のニーズを検証し、効果的なプロモーションによりリピーターの獲得やグリーンシーズンの誘客に取り組む。
③	<ul style="list-style-type: none"> ○ ライフスタイルの変化等により旅行形態やニーズが多様化しているものの、本県の特色を生かしたコンテンツが不足している。 ○ 自然公園内の環境の保全や公園利用者の安全性・快適性の向上を図るため、市町村からの要望を受けて歩道や駐車場、公衆トイレ等の整備を行っているが、要望箇所が多く、全てに対応できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多様化した旅行形態に対応するために、秋田を代表する世界遺産や国指定重要無形民俗文化財等の多様な自然・文化の魅力を最大限PRするほか、洋上風力発電などの新たな観光資源を活用した受入態勢の整備に係る市町村等の取組の支援等を行う。また、令和6年度に構築した世界自然遺産「白神山地」体験プログラム等データベースサイトの周知を図るとともに、旅行商品の造成等への利用に繋げるため、情報発信を強化する。 ○ 年々施設の老朽化が進んでいるが、国の交付金も活用し、優先度の高いものから順次整備していく。
④	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多様化する旅行ニーズに対応したストレスフリーな受入態勢の整備が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ バリアフリー化を含む幅広い取組を対象とする宿泊施設の高付加価値化等を目的とした補助事業等により、多様なニーズに応じた受入態勢整備を支援する。また、観光施設のバリアフリー調査や高齢者モニターツアーを開催するなどバリアフリー観光の周知を図るほか、観光地・宿泊施設等に係る情報発信及び電話相談等により安全・安心に旅ができるよう支援する。
⑤	<ul style="list-style-type: none"> ○ インバウンド需要の更なる増加が見込まれている中、クルーズ船の誘致などに向けた他都道府県との競争が激化している。 ○ 台湾チャーター便の就航により、秋田空港を利用する台湾人旅行者が増加しているが、空港内や二次交通への案内が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ インバウンド需要の増加に伴い、クルーズ船寄港回数も増加していることから、市場特性に応じた情報発信を行うとともに、県内自治体、民間事業者等との連携により、クルーズ船の継続的な寄港を維持し、海外からの誘客を促進する。 ○ 秋田空港内に通訳兼案内担当を配置し施設案内・誘導を行うほか、施設案内や二次交通案内看板の表示を分かりやすくすることで、台湾人旅行者の満足度の向上を図る。

6 政策評価委員会の意見

自己評価「c」をもって妥当とする。